

# 第27回中日産業技術賞

第27回中日産業技術賞(中日新聞社主催、経済産業省後援)の受賞技術・製品が決まった。選ばれた3件は、いずれも豊かな発想と最先端の技術で製品化を実現。「IT」「省エネルギー」「高度先進医療」の各分野で社会に大きく貢献している点が高く評価された。各賞に輝いた技術・製品を紹介する。

医療ベンチャー企業としてがん検査に取り組むキュービクスの丹野社長ら＝石川県野々市市で



医療ベンチャーのキュービクス(石川県野々市市)が開発した「消化器がんマイクロアレイ血液検査」は、数ミリの血液から消化器の早期がんを発見する。医療機関からの受注を二〇一一年八月から始め、検査は二千例を超えた。

血液から抽出した遺伝子をスライドガラスに張り付けて解析。がんの有無で特定の遺伝子の働きが違ふことにより判定する。金沢大(金沢市)との共同研究から事業化した。

## 特別奨励賞

## がん判定 少量採血で

## キュービクス

検査できるのは胃、大腸、膵臓、胆道の四臓器。遺伝子レベルの検査のため、がんを「陽性」と判定する診断感度は98・5%と腫瘍マーカーなどより高く、少量の血液採取で済むため体への負担も軽い。全国百十の医療機関が採用し、検査は月に百例ほどある。

キュービクスは、医薬品メーカーで医療情報を担当していた丹野博社長が〇四年に創業した。金沢大病院の教授から研究成果を事業化する人材の紹介を頼まれ「世の中に役立つことをしよう」と自ら引き受けた。

国は、がん検診の受診率を50%にする目標を示しており、丹野社長は「がん検診がもっと普及すれば、検査サービスの需要は拡大する」と期待する。

ただ、検査費用は自由診療のため六万〜十万円と高額で、結果が出るまで二週間ほどかかる。このため、二万円台、四時間で検査できる自動解析装置や、乳房など八つの器官のがんを一度に見つける次世代検査システムの開発も進めている。(村上豊)